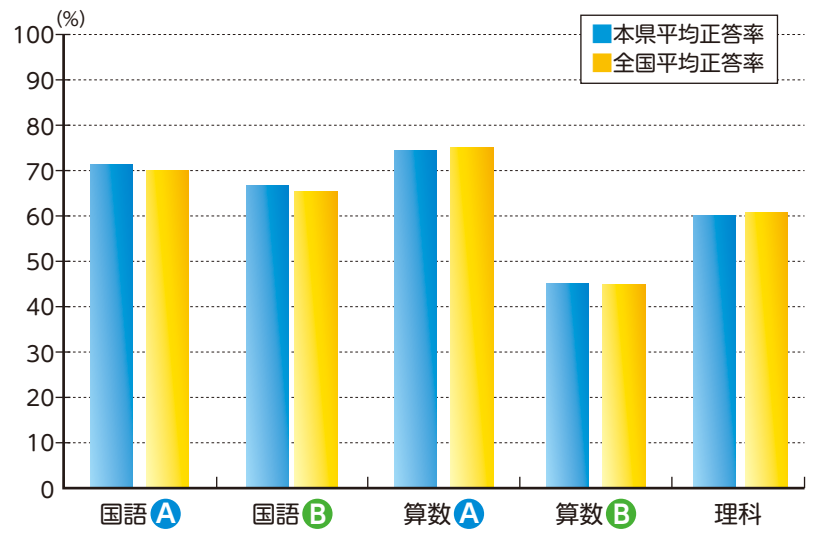


平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果

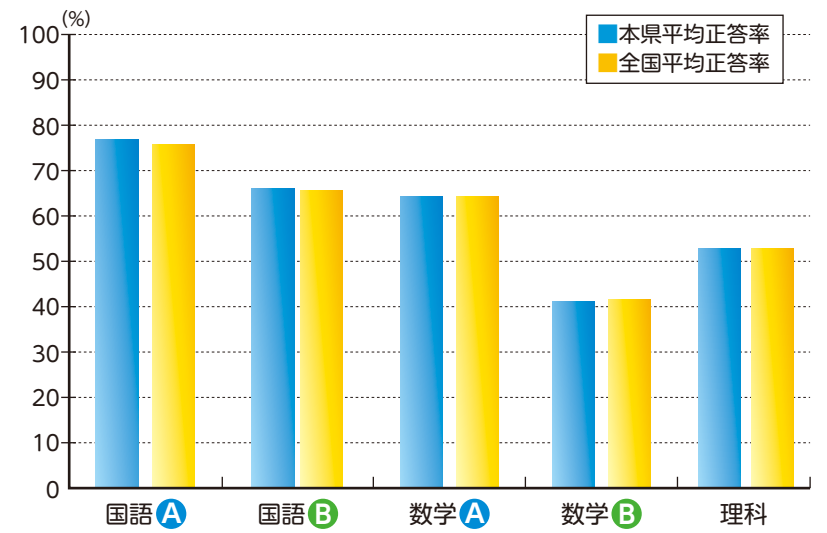
教科の調査

国語、算数・数学(A…主として知識に関する問題 B…主として活用に関する問題)
理科(「知識」に関する問題と、「活用」に関する問題を一体的に問う)

小学校6年生	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
本県平均正答率	71.5	66.8	74.6	45.2	60.1
全国平均正答率	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8



中学校3年生	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
本県平均正答率	76.9	66.2	64.3	41.2	53.0
全国平均正答率	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0



国語については、A問題(主として知識に関する問題)、B問題(主として活用に関する問題)の両方で、小学校・中学校とも全国の平均正答率を上回りました。それ以外の教科は、小学校、中学校とも全国平均と大きな差はみられませんでした。自らが積極的に考える、まとめるといった学習活動に取り組んでいる反面、「記述式の問題」に課題があります。考えをまとめる段階で適切な言葉や文字、式等を用いて説明する力をつけることが大切です。

本年度調査問題 理科から

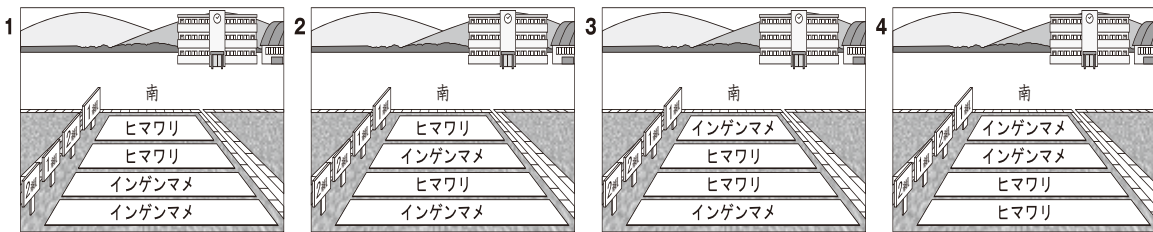
問題

【正答率】
鳥取39.7%
全国44.2%

よし子さんの学年ではインゲンマメとヒマワリの種子を畑にまくことにしました。右の観察記録は過去にそれぞれを育てたときの草たけの変化を記録したものです。

この記録から、インゲンマメとヒマワリの種子をどの場所にまくと、成長するまでインゲンマメとヒマワリの両方に日光がよくあたると考えられますか？

下の1から4の中から1つ選び、そのわけを説明しましょう。



植物の成長には日光が関係するね。太陽は東の方→南の空→西の方へと動くことを考えると、両方に日光があたるには？

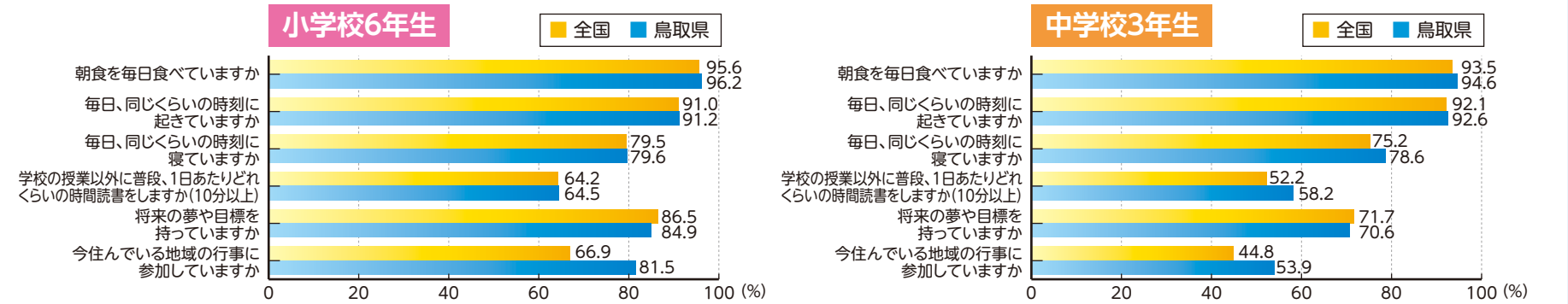


この問題は、「植物の成長の様子」と「日光の当たり方」をこれまでの栽培活動を通して得た知識から判断できるかどうかを問う問題です。解答の中には、「ヒマワリは日光が当たらないと育たないけれど、インゲンマメは日光があまり当たらなくても育つ」「太陽は東から出て北を過ぎて西に沈む」といった誤答も見られました。日常の植物栽培において、観察することや観察から出てくる疑問を大切に、これまでの体験で獲得した知識を実際の自然や日常生活の場面に当てはめていきたいものです。

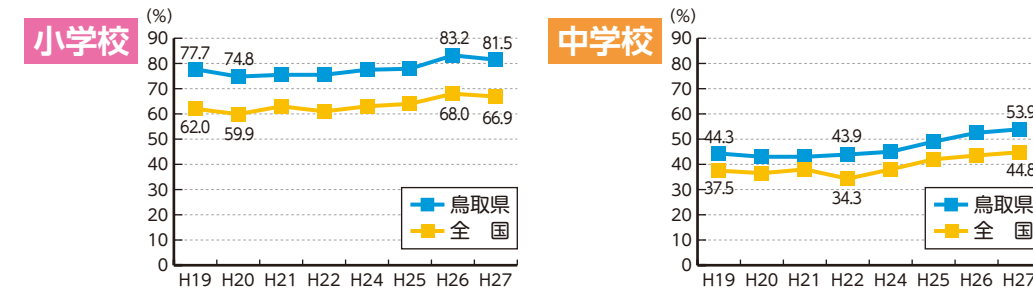
正解は4(理由:インゲンマメの方がヒマワリより草たけが低いので、ヒマワリよりも南側に植えると両方に日があたるから)

質問紙調査から

心と体のいきいき度 ※H23は、調査を実施せず

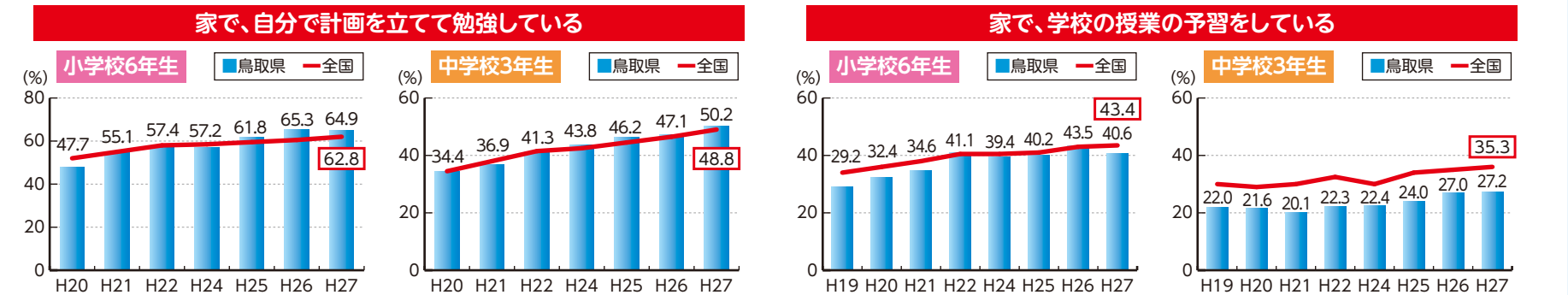


地域の行事に参加している(肯定的回答)

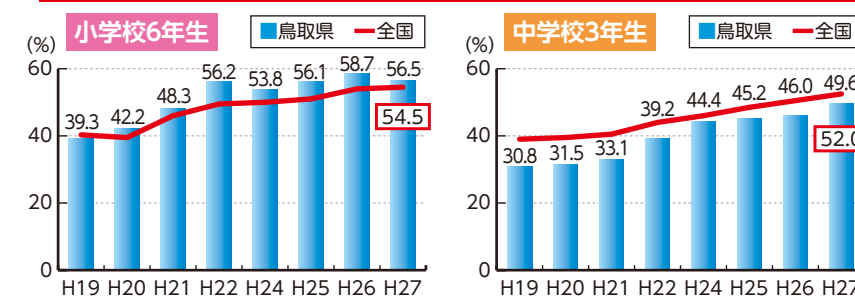


小学校・中学校とも「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対する肯定的回答が全国平均を下回っています。その他の項目については肯定的回答が全国を上回っています。地域の行事に参加する児童生徒の数が年々増加の傾向にあります。地域で子どもが活躍する姿がたくさん見られることは良いことです。ボランティア活動なども含め、積極的に地域の一員として活動しましょう。

平日の学習習慣(計画性・予習・復習) ※H23は、調査を実施せず



家で、学校の授業の復習をしている



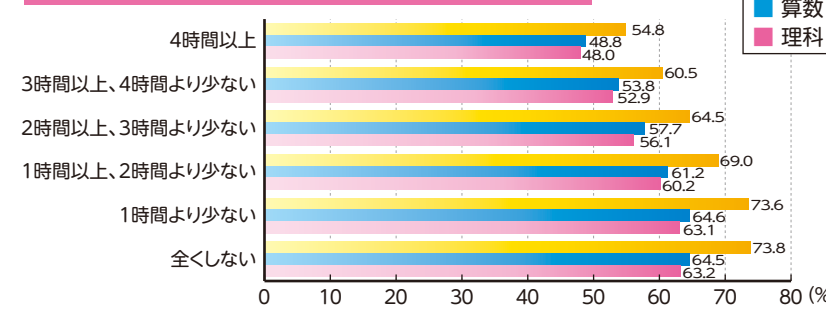
家で計画的に学習する児童生徒は年々増加の傾向にありますが、中学生になるにつれて、予習・復習とも全国と比べると肯定的な回答がやや少なくなっています。家庭での過ごし方について自分自身で振り返り、自分で計画を立てて予習・復習に取り組むなど、主体的に学習習慣をつけていくことが大切です。



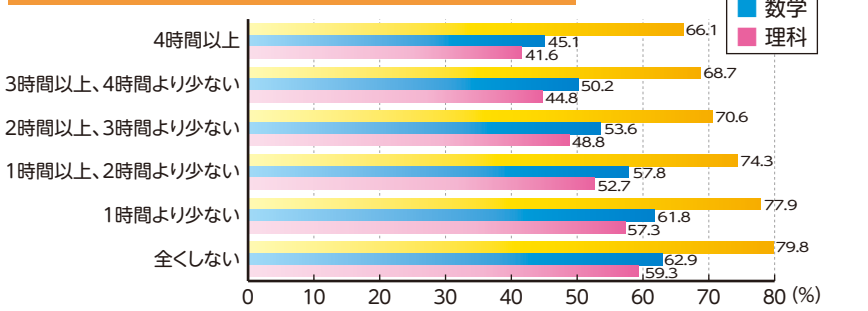
ゲーム、メディア等との関わり



ゲーム時間と平均正答率(小学校6年生)



ゲーム時間と平均正答率(中学校3年生)



小学校・中学校とも、ゲーム時間が増えるにつれ平均正答率は低くなっています。ゲームや情報端末の操作については、家庭でよりよい時間の使い方ができるよう、家族と一緒に約束を考えたり児童生徒が自分でルールを考えたり、ゲームつけ、メディアつけにならないよう上手につきあっていくことが大切です。